



道内第2の大河である「天塩川」は、天塩岳を源流域とし、市内の中央を貫流して北に流れ、日本海へと流れ出ます。多様な水生生物のすみかになるとともに流域には豊かな自然や水資源をもたらしています。

天塩川には様々な淡水魚が生息しています。淡水魚の中には、海を行き来する回遊魚もあり、サケやマス仲間、川で孵化した後、豊富な栄養のある海で大きく成長し、川に戻って産卵します。回遊魚の存在は、海から離れた場所にある士別も天塩川を介して、海とつながっていることを感じさせます。



かつて蛇行を繰り返して流れていた天塩川は、流路が直線化されることで、その湾曲部の一部は河跡湖や三日月湖と呼ばれる湖沼として残されました。市内では多寄町日向地区や南士別町に点在し、春や秋には多くの水鳥が羽を休める場所となっています。また、つくも水郷公園の池も三日月湖を利用したもので、かつての川筋を思わせる市民の憩いの場となっています

